

令和2年度 第2回南部町教育協働みらい会議 議事録

開催日時 令和3年2月16日(木)
 午後1時30分～午後2時30分
 開催場所 法勝寺庁舎2階 大会議室
 出席者 陶山町長、井上教育委員、板教育委員、瀬田教育委員
 土江副町長、福田教育長
 事務局 大塚総務課長、安達教育次長
 岩田人権・社会教育課長、水嶋総務・学校教育課長
 書記 人権・社会教育課 新井課長補佐
 欠席者 畠教育委員
 傍聴人 なし

	【開会 午後1時30分】
	【1. 互礼・開会】
	【2. あいさつ】
陶山町長	千葉大学大学院教授を中心に、人口減少・高齢社会のインパクトを地域レベルで実感できる、全市町村に対応した「未来カルテ」が開発されている。中高生を対象にこのカルテを活用し、2050年の本町の姿を提言できるような研修を検討したい。また、現在保育園統合に向けて、子ども子育て会議を通して取組を進めているところである。町民からは、中学校統合のことも聞かれる。今後、未来への方向性を示していきたい。
	【3. 意見交換】
土江副町長	各教育委員からのご提案、ご意見を願います。最初に井上委員から願います。
	1)「少子化における今後の学校の在り方」について
井上委員	少子化における今後の学校の在り方についてをテーマとしたい。今後、少子高齢化は確実に進んでいく。現在、会見第二小学校は、全校17名の小規模校で、1学年の平均が2、3名程度である。学力的にはプラスかもしれないが、一方では競争がないと感じる。小さな時から大人数で過ごすことは重要ではないか。今後の少子化に向けて、校区の見直し等が必要になってくるのではないか。中学校統合や会見第二小学校の今後の在り方等についてお聞きしたい。
瀬田委員	10年後はさらに子どもが減ってくる。小学校と中学校の連携が益々重要になってくるのではないか。10年後を見据えた教育環境の見通しを立てることが重要ではないだろうか。
板委員	少子化は必ずしも悪いことではない。個別に丁寧に指導できることはメリットである。一方で、中学校の部活動は、少子化が部活動数の減少にもつながるので心配である。
福田教育長	中学校統合については地域の方より時折ご意見をいただくが、現在は小中一貫教育を進めている状況である。若桜町などでは中学校が1学年17人程度で小中一貫を実施している。近隣では、義務教育学校という形での取組が進んできている。中学校統合については今後検討していく課題のひとつであるが、全国的には、保護者は賛成が多く、地域は賛成が少ないという構図が見られる傾向にある。
陶山町長	少子高齢化により教育も大きく変換する時期に来ている。学校の統合も含め、しっかりとした議論が必要となってくる。

井上委員	人と人との交わりは今後益々必要であり、コミュニケーション能力の育成は必須である。そういう面からも検討する必要がある。
	2)「里地・里山推進と複合施設の活用」について
板委員	地元での体験活動の活性化、様々な資源を活かす取組が必要であると感じる。地域の自然を活用しながら、そこに子どもから大人まで巻き込んでいく仕掛けができないだろうか。
瀬田委員	町内で身近な自然を体験する場、子どもの要望に応える場が少ないと感じる。先日親子で訪問した大山青年の家では、様々な体験活動があり、とても有意義であった。五月にオープンする複合施設「キナルなんぶ」の里山学習コーナーで自然や文化体験ができることに期待している。
井上委員	南さいはくでは地域振興協議会を中心に、炭焼き、原木からのシイタケ収穫など米子市の明道校区との交流を行っている。里地里山は人が手を入れないと維持できない。人々が協力し、つないでいくことが重要である。大人も子どもも関わることで、「まち未来科」の充実・発展につながっていくのではないかな。
陶山町長	里地里山を未来につないでいくことが大事だと思う。一方で民有地も多く、行政が直接関与することができないこともあるので、里地里山をどう守っていくのが課題である。環境保護の重要性をどう町民と共有するのか考えていきたい。
	3)「コロナ禍における人権」について
瀬田委員	昨今は様々なメディアを通じて多くの情報が簡単に手に入る。それらの情報が正しいかどうかを一人ひとりが判断することが重要となってくる。特にコロナ禍においては、感染者に対する誹謗中傷が絶えない。今こそ人権の取組を強化する必要があると思い、今回のテーマとして提案したい。人権意識の終着点は一人ひとりの人権意識であり、自分の発言に責任をもつことが重要である。このことが、あらゆる差別をなくす方向につながっていく。令和3年度には、本町の「南部町における部落差別をはじめあらゆる差別をなくす総合計画」が改訂される。一人ひとりの人権意識の問題をどう捉え、取組をすすめていくのかを聞きたい。
福田教育長	一人ひとりが差別や不合理に気づくこと、そして自分の意識を変えていくことが重要である。本町の意識調査の中でも差別意識が残っていることは明らかである。改訂を一つのきっかけとして、さらなる人権教育や啓発の推進に努めたい。
井上委員	ネットやsnsの時代であり、無責任な発言があふれている非常に怖い時代であると感じる。これを解決するには教育を推進する以外にはないと思う。
陶山町長	コロナ禍での人権侵害についてはよく耳にする。人の意識は変わっていくものであり、常に研鑽が必要である。これまでの取組を検証しながら町民一人ひとりが人権について学んでいくことが重要だと感じている。
土江副町長	最後に教育長から総括をお願いする。
	【4. 挨拶】
福田教育長	里地里山はあらためて情報発信が必要と感じている。コロナ禍ということもあるが、体験活動が少なくなっており、あらゆる機会をとらえて体験の場を作りたいと考える。また、本町は人権が大黒柱の町づくりを推進している。コロナ禍での誹謗中傷を検証しながら、さらなる人権の取組を進めていきたい。本日各委員からいただいたテーマは、どのテーマも教育行政を考える上で重要な内容であるので、今後も教育協働みらい会議等で継続協議をお願いする。
	【5. 互礼・閉会】
	【閉会 午後2時30分】